

→「薬子の恋」前夜—美貌の女人と長岡京から平安遷都への道—

2017.10.8(日)カルチャーウォーキング

関西文学散歩第 527 回 参加報告

講義の後、昼食、休憩となる。

12 時 45 分、秋晴れとはいえ、夏の陽射しを感じさせる中、再び歩き始める。向日神社の前を左に折れ、長岡京大極殿跡を目指す。

大極殿跡は、住宅地の一角に緑の公園となっていた。解説板には、「桓武天皇が平城京より 784 (延暦 3 年) 11 月 11 日この地に遷都された」とあり、長岡京の中心建物「大極殿跡」が表示されている。

公園には儀式のときに使われた宝幢(幟旗)の柱も復元されており、朝堂院跡の緑の小丘を見て薬子の父・藤原種継にゆかりがあるという石塔寺へと向かう。

石塔寺にて↓



く、本日は諦めざるを得ないようだ。

私たちはその後、再び、西国街道に戻って一文橋を目指す。小畑川を渡る地点にかかるその橋の袂に、一文銭を象った硬貨が設置され、解説板も設けられている。「渡り賃が一文だったのでこの名が付いたそうですが、代金は橋の修理や架け替えの費用に充てられたようです」と講師の話を聞く。

一行は一文橋を渡り、長岡京市の市街地を目指して西国街道をさらに南へ辿った。街道筋の面影が残る道は、左折すれば JR 長岡京駅、右折すれば阪急長岡天神駅の交差点に着き、そこが今日のコースの終点だが、すぐ西側に、



↑長岡京大極殿跡

石塔寺は日蓮宗の寺院だが、寺が創建される前、長岡京時代に藤原種継が暗殺されたのがこの辺りと伝えられており、「いわば造営工事の管理事務所のような建物があつて、長岡宮造営責任者の種継は勤務中だったのでしょう」と横井講師。

この事件では、無実を訴えて絶食し、憤死した早良親王の事も気になるのだが、皇子が幽閉されていたという乙訓寺はコースから外れてやや遠



↑一文橋

長岡京の発掘に貢献された中山修一氏を讃える石碑があり、さっき見てきた京址を思い出しながらの解散となる。

このコース上には、直接、藤原薬子に係わる遺跡が残されているわけではないが、今日は、若き薬子が生きた町の様子、彼女が藤原家の政権争奪戦に巻き込まれいく有様、そして平城京で命を絶つことになる藤原薬子という美貌の女人に想いを馳せながらの文学散歩だった。皆さん、おつかれさま、詳しくガイドしてくださった横井講師に感謝。

(報告：岸田春二)